

『「キ」になるイベント』 が開催されました！

青森県の将来を担う子供たちと、消費者であるその親御さんを対象に、環境公共の取組が本県の豊かでおいしい農林水産物の生産を下支えしていることを PR するため、平成 29 年度から始まった環境公共推進プロジェクト。県内各地で行われる『食』と『農』に関する体験学習は 3 年目を迎えました。

過去 2 年は海を舞台に行ってきました。
今年度は山を舞台としたプログラムに変更！
夏休み中の児童と保護者総勢 33 名が参加してくれました。

<今年の内容をご紹介>

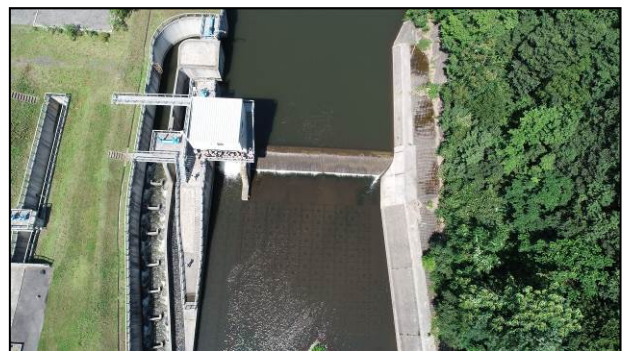
1. おさかなの道を見に行こう！ ～巻の下頭首工・ポンプ場～

田畑に水を送るためには、河川から水を取り、水路を利用して配分しなければなりません。頭首工（とうしゅこう）と呼ばれる施設は、河川から取水する施設のことです。今回は八戸市南郷地区にある、巻の下頭首工を見学しに行きました。

河川から取水するためには、ある程度水をせき止めなければなりません。すると、水面に段差が出来て魚が上りにくくなってしまいます。

そのため、魚が行き来できるように頭首工には魚道を作っています。イベントの中では、魚道に水が流れ入る様子を見学しました。普段見ることのない光景に、参加した皆さんは興味津々！

農業もハイテクが進む現代。
ドローンを使って上から頭首工を見ると右のようになっています。



2. 吊り橋、水車、ホタル、カップまでも？ ～島守田園空間博物館～

田園空間整備事業（H10～H17）により整備された島守盆地を、ガイドとともに散策しました。

参加者は水辺の学校をスタートし、虚空蔵（こくうぞう）吊り橋を渡り、水車小屋やホタル水路を観察しながら、朝もやの館まで歩いて



行きました。

実はカッパの伝説が残る島守。昔話も聞きながら、約 700 年前の風景を残す島守盆地を、五感で体験した時間になりました。

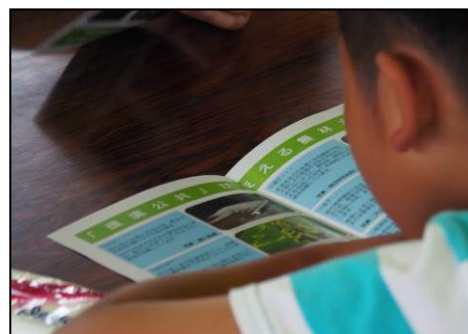


3. 環境公共って、なんだろう？

サブタイトル『「キ」になるイベント』であるこのイベントも、「環境公共推進プロジェクト」と銘打っています。

そもそも、環境公共って、なんだろう？そのことについて、昼食後の時間を使って学習会を行いました。普段聞き慣れない言葉ですが、「農林水産業を支えることは地域の環境を守ることにつながる」との観点から、農業や林業、水産業のために行う公共工事の事を、青森県では「環境公共」と呼んでいます。

今年で「環境公共」は 11 年目を迎えています。



4. 樹になるまでは 40 年！ ～植樹体験～

三八地方森林組合の指導の下、スギの苗木を南部町の山間部に植えました。

スギの苗木はポット苗、と呼ばれる苗木で管理され、穴開け専用の器具を用いて各々植えました。100 本用意した苗木も、みんなで植えればあっという間になくなってしまいました！





大人のスギのように、木材として加工できる大きさになるまでは40年ほどかかるそうです。大人になったらまた見に来てみてね！

その後は、青森県の林業について勉強。山や木を管理する人、木を切ることの大切さなどについて学びました。



5. 木に成るのは旬のフルーツ！ ～ブルーベリー収穫体験～

イベントの最後は南部町の観光農園でブルーベリーを収穫体験。

南部町は一年を通してフルーツが採れます。7月の終わり頃はブルーベリーの最盛期でした。列によって異なる品種が植わっていたので、どの列の品種が美味しいかな？と食べ比べもできましたね。



夏休みの思い出に、学校の宿題の参考になったかな？

暑い中、一人も怪我なく熱中症なく無事に終わることが出来て良かったです。

参加者のみなさまお疲れ様でした。来年はもっと楽しくなるかな？